明治三十二年の拡張整備を機に、翌年には小松島～徳島間の定期航路が開設され、やがて阪神と航路で結ばれるようになると、小松島港が徳島港を凌いで旅客・貨物量を増大し、県下の海上輸送の拠点となりました。

昭和九年（一九三四）に新港が完成してからは、神田瀬川北岸に港および駅を中心として市街地が形成され、以来、港湾都市として発展。二十三年（一九四八）には開港場の指定を受け、外国貿易港としても大きな役割を果たすようになりました。

さらに、二十六年（一九五一）に重要港湾に指定されると港湾関連施設の整備も飛躍的に進展し、以後、船舶の大型化・フェリー化・高速化に対応するため、旅客中心の本港地区に一万トン岸壁（昭和三十五年）を完成させ、湾域の変更により、地方港湾徳島港を含めて重要港湾小松島港となり（三十九年）、さらに工業的性格の強い金磯地区に一万トン岸壁（四十三年）、一万五千トン岸壁（四十八年）を次々と完成させました。港の整備とともに工場誘致や宅地造成が進み、小松島市は、重要港湾を擁する臨海工業都市として飛躍的に躍進しました。

昔の風景

現在の風景

鉄鋼（てっこう）団地

A new port was constructed in 1934, and Komatsushima Port was approved as a treaty port in 1948; it played an important role as a foreign trade port. After it was approved as an important port in 1951, Komatsushima made rapid progress as a coastal industrial city, with its port facilities greatly improved and with manufacturing companies invited to set up their plants in the area.

臨海工業港湾都市

Chapter Ⅱ

明治32年から順次進められた港湾の整備は、工場の誘致を促進させると同時に、市街地の拡張及び商業の発展に大きな役割を果たした。